町内にはさまざまなコミュニティがあり、独自の活動をしています。そんな皆さんの活動やイベントをご紹介するコーナーがステイ･スマイル（笑顔のままで）です。

# Stay Smile ステイ・スマイル

## Stay Smile 農業の未来へ向かって ～新たな力～

町新規就農支援事業

### ◆黒坂 亮輔さん（立沢）

立沢地区で就農し、JAパセリ部会に入り、今年で３年目になります。

まだ３年目ではありますが、途中家族の病気があり「これからの営農活動や富士見町での生活はどうなってしまうんだ」と目の前が真っ暗になってしまったことがありました。しかし、役場や保健センターの職員の方、本郷小の先生方、立沢南原常会の皆様方、パセリ部会の偉大な先輩方、JA職員の方、同世代の農業の先輩方、本当にたくさんの方たちに助けていただき、今日まで家族皆が無事にやってこられたこと、改めまして御礼申し上げます。ありがとうございます。

まだまだ未熟な自分ではありますが、お世話になっている立沢地区のパセリ農家のようなトッププロになる目標があります。その目標が達成できた、すごく近づいたと評価された時「地域貢献・恩返し」という言葉を口にすることができると思っています。

１年でも１日でも長く農業という仕事を続けること、人として農家として一歩ずつ、いや半歩ずつでも高みを目指して精進すること。今はただ、それだけです。

## Stay Smile はじめまして。『地域おこし協力隊』です！

富士見町地域おこし協力隊

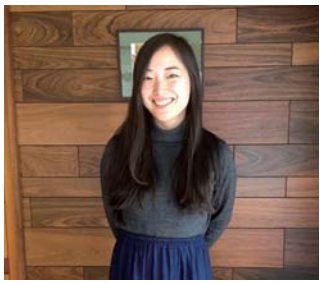
「地域おこし協力隊」は、都市地域から地方に生活拠点を移して地域おこし活動をしながら定住を図る取り組みで、平成26年には1,500人を超える隊員が全国で活躍し、年々その数は増えています。富士見町にも昨年12月から２名の若者が移住し、活動を始めています。

そこで、今月からこのコーナーでは、町の皆さんに協力隊とその活動を知ってもらうための情報を発信していきます。第１回目は協力隊員の自己紹介です。

私たちは2015年12月にオープンしたばかりのシェアオフィス／コワーキングスペース（共同作業スペース）、「富士見 森のオフィス」にて地域おこし協力隊として働いています。

【松井 彩香】

両親の別荘が原村にあることから、10年ほど前から富士見町にはよく来ており、富士見町の自然と町の雰囲気が大好きだったので、こうして住民となることができてとても嬉しく思っています。現在は、富士見森のオフィスで働きながら、以前から請け負っていた都内のWEBメディアの仕事も続けており、富士見町と東京を行ったり来たりしています。今後は、富士見森のオフィスに町の方々がたくさん訪れ、愛される施設に育っていく様に、様々な企画を実現していきたいと思っています。



【渡辺　葉】

今までは東京のギャラリーで働きながら翻訳の仕事をしていましたが、昨年末に横浜の実家から富士見町に引っ越してきました。富士見町へは３年前から友人達が移住していたこともあり、訪れる度にその美しい景観に心惹かれていたので、こちらに住むことが出来てとても嬉しいです。より多くの人が富士見に住みながら快適に仕事が出来るよう、繋がりが生まれる場所として富士見森のオフィスの環境を整えられるよう頑張っていきたいと思っています。

パソコンを持ってくればwi-fiを使って作業できるコワーキングスペースと、会議室やキッチン＋食堂はどなたでもご利用頂けます。仕事場として、イベント、セミナー、教室などにぜひご利用下さい。

## Stay Smile 本と遊び、本に学ぶ

富士見町読書活動推進委員会 事務局　☎62-7930

### 富士見町子ども読書活動推進計画（第2次）

今月は朗読の会の活動を紹介します。

**【朗読の会の活動】**

①「朗読勉強会」
　月に３回　毎週火曜日(コミ･プラ)
②「定期・不定期活動」
③ 境小学校・富士見中学校での読み語り
　川崎少年自然の家で年に１回の読み語り
④「発表会」年１回

▲朗読勉強会の様子

▲朗読の会メンバー

朗読の会では月に２回～３回朗読好きの仲間が集まって楽しく活動しています。平成14年度に発足以来、先生について活動をしていました。現在は、当時学んだ事を思い出し、手探りの中ではありますが、細く長く活動を続けています。

年に１回、発表会を行っています。１年の初めに今年は何をやろうかと、本選びが悩ましいところです。そのために毎回、各々がいろいろと読んで決めていく、それもまた本好きの楽しみのひとつです。

また、ほかの朗読会を聴くのも何よりの勉強になります。山梨県で年に１度開かれる「朗読フェスティバル」では、小学生から大人まで多くのグループの代表者の発表があり、大いに触発されます。

その他に、境小学校、富士見中学校で読み語りをしています。地域の子どもに「方言」を残していきたいという思いから、諏訪や富士見の民話や昔話を中心に各々が活動しいています。熱心に聴いてくれるのでこちらが元気をもらっています。以前、中学校の文化祭で20名の生徒が地域の民話を語ってくれて嬉しかったです。これからもいろいろな作品との出会いを楽しみに続けていけたらと思っています。

※次回は学校図書館指導員の活動内容をご報告します。

## Stay Smile 子育てはたくさんの笑顔とたくさんの手で ～子どもの場所から～

NPO法人ふじみ子育てネットワーク　☎62-5505

### 「体験」は育ちの栄養

ある日の「小学校放課後のあそびば」でのスタッフと子どものやりとりです。

- 「今日のおやつは何？」「ご飯を炊いておにぎりにしようかと思っているよ」「やってみたい！」「いいよ～、最初からやる？」「最初って？」「たき火をつけるところから」「うん！」「じゃあ、小枝を拾いに行こう」
- 「カッターナイフ貸してください」「何に使うの？」「この枝を削って（ちゃんばらごっこの）武器を作るんだ」「そっか、使ったことある？」「うん」「じゃあ、どうぞ。」スタッフが男の子の様子をみて「そのやり方だと、そばにいる人が危ないから、勢いがつかないよう枝をもっている手の親指でナイフを押すように削ってごらん」「うんわかった」。

このようにあそびばでは子どもたちの「やってみたい」を実現できる工夫を大人がしています。先に「無理だと思う」「危ないからやめたほうがいい」と言わないで、どうやったらその子が自分でできるか、大人がどこまで関わるのがいいかを相手の子どもの年齢や経験値、力量を見て判断し「体験の機会」を保障しています。子どもは実際にやってみることでいろんなことを体と心で覚えていきます。刃物を使うこと、火を扱う事、だけではありません。さまざまな遊びや友達とのやり取りの中に子どもが育つための「体験」があふれています。高学年がやっていることを低学年が見ていることも立派な体験です。また失敗も大事な体験です。体験を重ねた子どもたちは徐々に自分の力で「やってみたい」に挑戦し「できた！」の数を増やしていき、豊かな創造力、感性を身につけていきます。

▲飯盒でご飯を炊いています。火加減が難しいね

▲刃物を使うときは周囲にも気を配る必要があることも体験から学びます

▲どうやったらうまくいくか試行錯誤中

▲高学年が作ってくれたおにぎりをおいしい!と言ってほおばる低学年の子達

※あそびばの見守りスタッフを募集しています。関心をお持ちの方は事務局 ☎62-5505までお問い合わせください。